

令和5年度病虫害発生予報第6号（10月予報）概要表

令和5年9月26日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 大豆</u>		
(1) ベと病		多
(2) 食葉性チョウ目幼虫		多
(3) マメシンクイガ		やや多
(4) シロイチモジマダラメイガ		並
(5) 吸実性カメムシ類		多
<u>2 なし</u>		
(1) うどんこ病		やや多
(2) 黒星病の防除対策	/	/
<u>3 なす（夏秋栽培）</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) オオタバコガ		やや多
(3) ハダニ類		多
(4) アザミウマ類		やや多
<u>4 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		並
(3) 退緑黄化病		やや多
(4) 黄化えそ病		やや多
(5) コナジラミ類		多
(6) アザミウマ類		並
<u>5 ブロッコリー</u>		
(1) ベと病		並
(2) ハスモンヨトウ		多
(3) シロイチモジヨトウ		多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>6 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) 黒斑病		多
(3) ベと病		並
(4) 軟腐病		やや多
(5) シロイチモジヨトウ		多
(6) ネギアザミウマ		多
(7) ネギハモグリバエ		やや多
<u>7 いちご (本ぼ)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		並
<u>8 茶</u>		
(1) チャハマキ (第4世代幼虫)		やや少
(2) チャノコカクモンハマキ (第4世代幼虫)		やや少
(3) チャノホソガ (第5世代幼虫)		やや少
(4) カンザワハダニ		並
(5) ツマグロアオカスミカメ		やや少

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和5年度病虫害発生予報第6号（10月予報）

令和5年9月26日
埼玉県病虫害防除所

1 大豆(1/2)

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	多	○9月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・遅まきの在来系統や「里のほほえみ」は、10月上旬頃まで感染しやすい時期が継続するため、特に注意する。
食葉性 チョウ目幼虫 (ハスモンヨトウ) オオタバコガ シロイチモジ ヨトウ等	多	○9月中旬の発生量：やや多 □県予察ほ場の発生量：並（±） □フェロモントラップによる誘殺数：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・ハスモンヨトウについては、「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・オオタバコガについては、8月15日に発表した「注意報第3号」（ 参照3 ）を参考に適期防除を実施する。 ・シロイチモジヨトウについては、9月25日に発表した「注意報第5号」（ 参照4 ）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照2 ）を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
マメ シンクイガ	やや多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・9月中旬頃に成虫が見られたほ場では、10月上旬頃までに薬剤による防除を実施する。
シロイチモジ マダラメイガ	並	○9月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	・遅まきでは子実肥大初期～中期（開花期20～40日後）を目安に、薬剤による防除を実施する。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

1 大豆(2/2)

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
吸実性 カメムシ類	多	○9月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：少（－） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（＋）	<ul style="list-style-type: none"> ・9月下旬以降はミナミアオカメムシが主体となるので、「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。 ・ミナミアオカメムシは莢が黄化しても吸汁を行うので、多発している場合は収穫前日数に注意しながら薬剤による防除を行う。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種時期により生育状況が異なるため、ほ場を注意深く観察し、発生を確認したら速やかに防除対策を実施する。 			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

参照 3：令和 5 年度病虫害発生予察注意報第 3 号「野菜類・花き類・ダイズ、オオタバコガ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-3.html>

参照 4：令和 5 年度病虫害発生予察注意報第 5 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-5.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや多	○9月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
黒星病			<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1)を参考に防除対策を実施する。 ・葉裏の秋型病斑は翌年の一次感染源となるため、10月中旬から11月上旬に予防剤を散布する。 ・発病葉、発病枝の早期発見に努め、見つけ次第切り取って園外で処分する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐性菌の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 なす（夏秋栽培）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
オオタバコガ	やや多	○9月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・8月15日に発表した「注意報第3号」(参照3)を参考に適期防除を実施する。 ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
ハダニ類	多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
アザミウマ類	やや多	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の発生が助長されるため、過繁茂とならないように整枝せん定を行う。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 3：注意報第 3 号「野菜類・花き類・ダイズ、オオタバコガ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-3.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。
退緑黄化病	やや多	○9月中旬の発生量：散見 □10月のコナジラミ類の発生量は多と予想（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	やや多	○9月中旬の発生量：やや多 □10月のアザミウマ類の発生量は並と予想（±）	
コナジラミ類	多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 ブロッコリー

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○9月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（－）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照 1) を参考に防除対策を実施する。
ハスモン ヨトウ	多	○9月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（＋）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
シロイチモジ ヨトウ	多	○9月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：多（＋） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平常並（＋）	・9月25日に発表した「注意報第5号」(参照 4) を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照 2) を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：注意報第 5 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-5.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
黒斑病	多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
べと病	並	○9月中旬の発生量：無 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	
軟腐病	やや多	○9月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> ・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を確認し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジヨトウ	多	○9月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・9月25日に発表した「注意報第5号」（参照4）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照2）を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
ネギアザミウマ	多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照1）を参考に防除対策を実施する。
ネギハモグリバエ	やや多	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・被害の特徴が異なる B 系統が発生しているため、令和元年度特殊報第1号「ネギハモグリバエの B 系統の発生について」（参照5）を参考に防除を実施する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：注意報第 5 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r5-5.html>

参照 5：令和元年度特殊報第 1 号「ネギハモグリバエの B 系統の発生について」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/tokusuhouh30-3.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

7 いちご（本ぼ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○9月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（±）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・育苗中に発病した苗およびその周辺の苗は定植しない。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	並	○9月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・育苗中に発生が見られたほ場では、定植前の苗の防除を徹底して、本ぼへ持ち込まないようにする。 ・高温期は増殖が早いので、こまめに発生状況を確認する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャハマキ (第4世代幼虫)	やや少	○9月中旬の発生量：やや少 □予察灯の誘殺数(第3世代成虫)：少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表のフェロモントラップデータ(参照2)を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ (第4世代幼虫)	やや少	○9月中旬の発生量：やや少 □予察灯の誘殺数(第2～3世代成虫)：少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・防除所発表のフェロモントラップデータ(参照2)を参考に、幼虫若齢期に薬剤による防除を実施する。
チャノホソガ (第5世代幼虫)	やや少	○9月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量(第5世代幼虫)：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	
カンザワハダニ	並	○9月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・急増することがあるため、発生状況に注意し、休眠期に入る前に薬剤による防除を実施する。
ツマグロアオカスカメ	やや少	○9月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：少(－) □気象予報：気温は高い、降水量はほぼ平年並(＋)	・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する10～11月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値(埼玉県の過去10年間の平均)との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和5年9月21日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

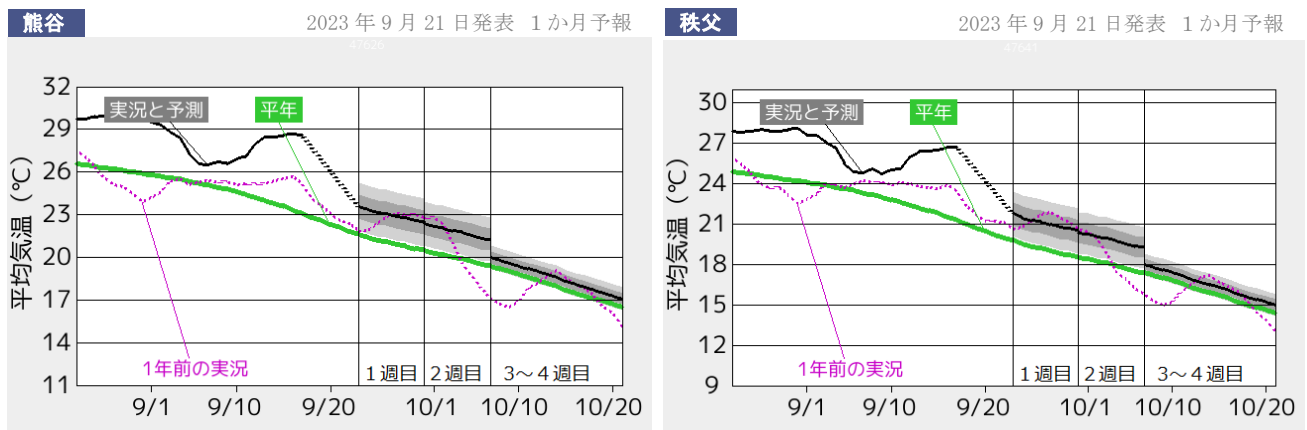
・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】 関東甲信地方	10	10	80
【降水量】 関東甲信地方	30	40	30
【日照時間】 関東甲信地方	30	30	40

凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

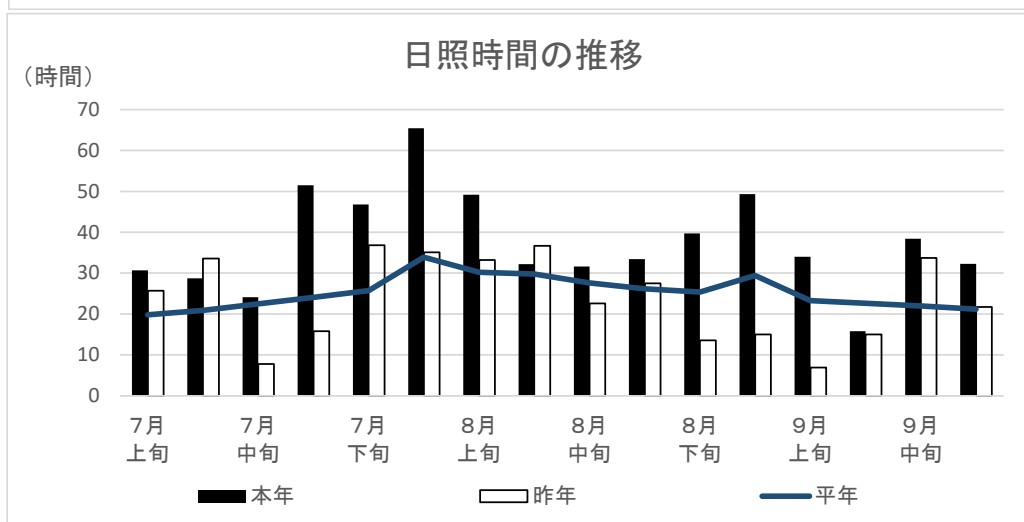
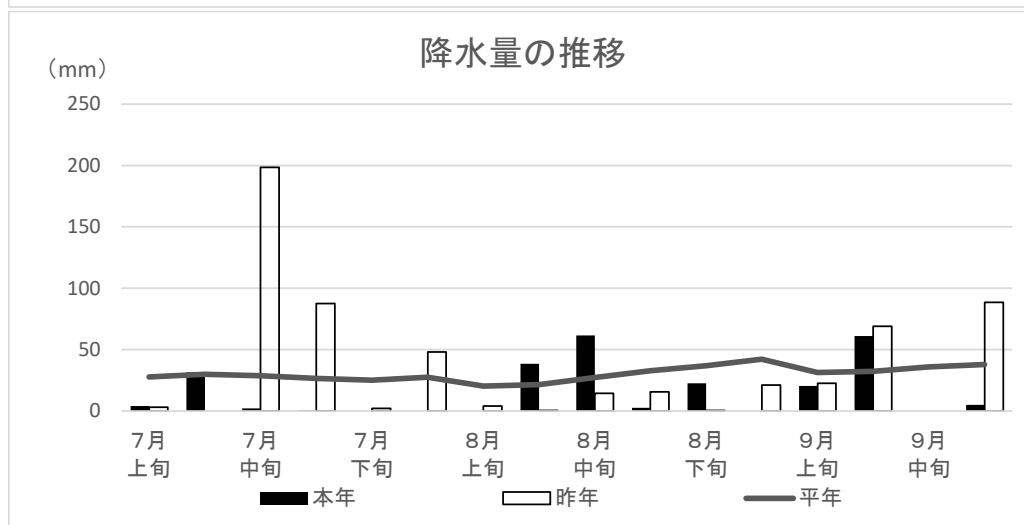
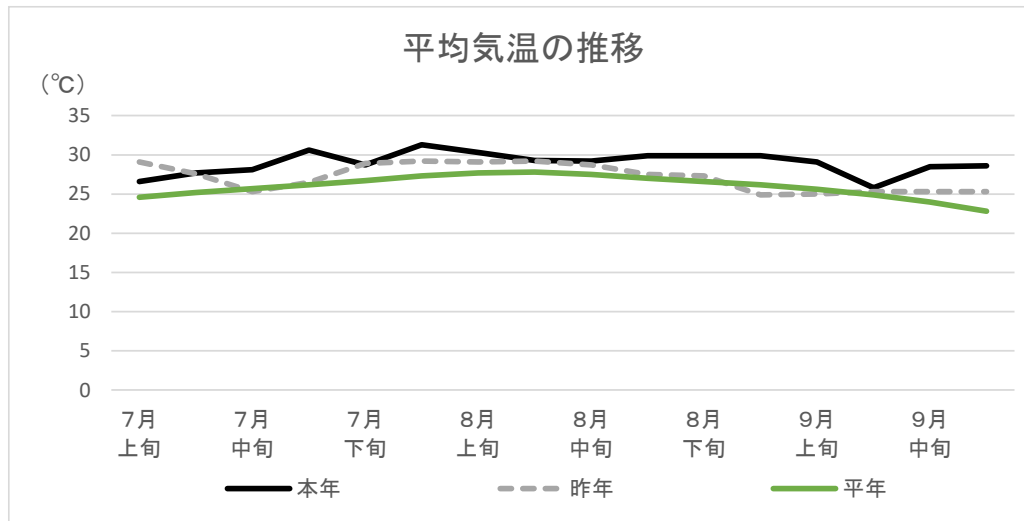
(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線)** —————
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ)** —————
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線)** —————
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線)** - - - - -
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>